

下町河川 Tomorrow

東京都・江東内部河川流域連絡会の情報紙（会議録）

平成20年10月24日（金）

第33回（第5期第7回）江東内部河川流域連絡会を開催



●●会議次第●●

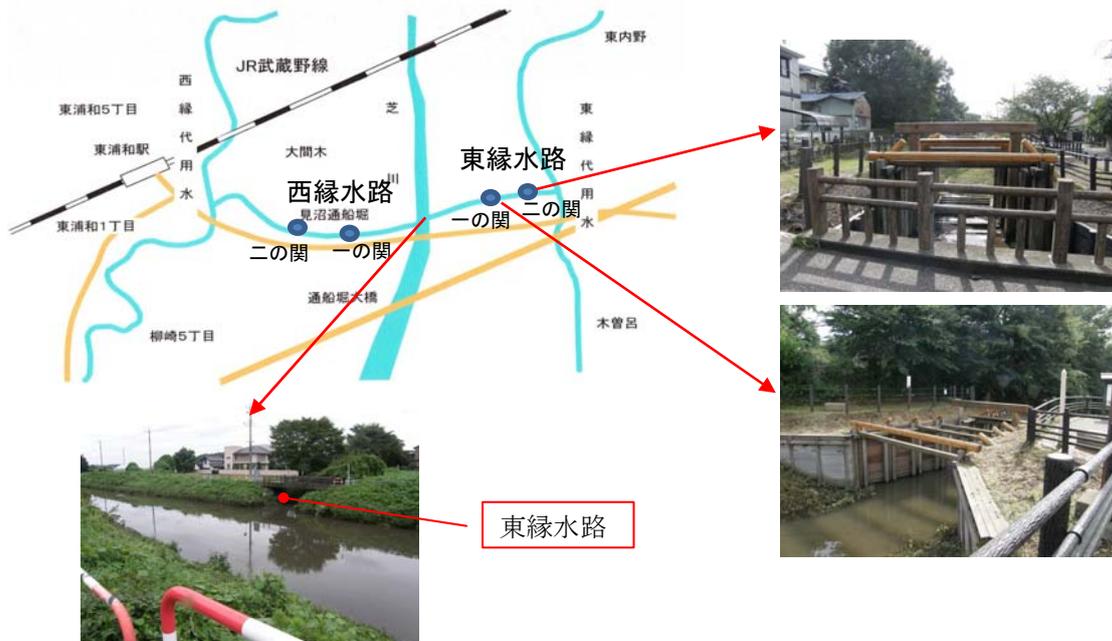
1. 江東内部河川の水面利用（事例紹介）
2. 埋立てられた河川と撤去された橋のモニュメント
3. 河川清掃等のボランティア活動
4. 都民委員からの話題提供

- ・「第32回（第5期第7回）江東内部河川流域連絡会」を、午後2時から4時30分頃まで、江東区役所 防災センター41・42 会議室にて開催しました。
- ・都民委員5名と墨田区、江東区、江戸川区、東京都江東治水事務所等の行政委員7名が参加しました。
- ・埋立てられた河川と撤去された橋のモニュメント、河川清掃等のボランティア活動、水面利用（見沼通船堀の事例紹介）について意見交換を行いました。

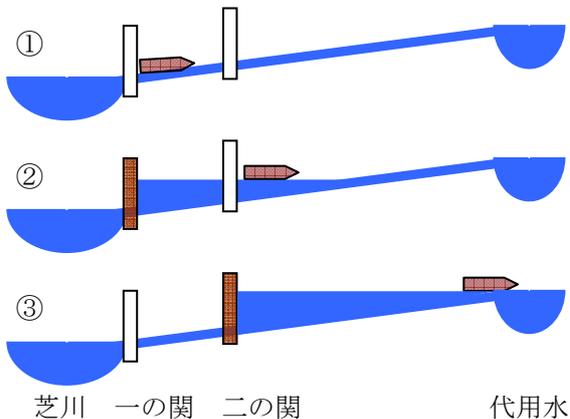
水面利用（見沼通船堀の事例紹介）

◆「お客さんから横十間川以外で和船に乗りたいたよく言われる。横十間川親水公園から小名木川に通航できるようにするには、どうしたら良いか考えている。事例として、見沼通船堀がどのようなやり方をしているのか、教えて欲しい。」との意見から資料を提供しました。

- ・見沼通船堀は埼玉県さいたま市、JR 武蔵野線東浦和駅の近く、荒川に通じる芝川と西縁代用水・東縁代用水を結ぶ水路に通船堀がある。
- ・見沼通船堀は 1731 年につくられた日本最古の閘門式運河である。
- ・通船堀は代用水付近の村々から江戸へ、主に年貢米を輸送することを目的として整備された。東西の代用水と芝川との間に水位差が 3 m あったため、それぞれに閘を設けて水位を調節し船を上下させた。
- ・実際は閘に一枚ずつ、板を入れたり抜いたりして、水を上下させる仕組みになっている。
- ・ 8 月下旬に開閉実験を行っている。



閘門を使った通航のしくみ

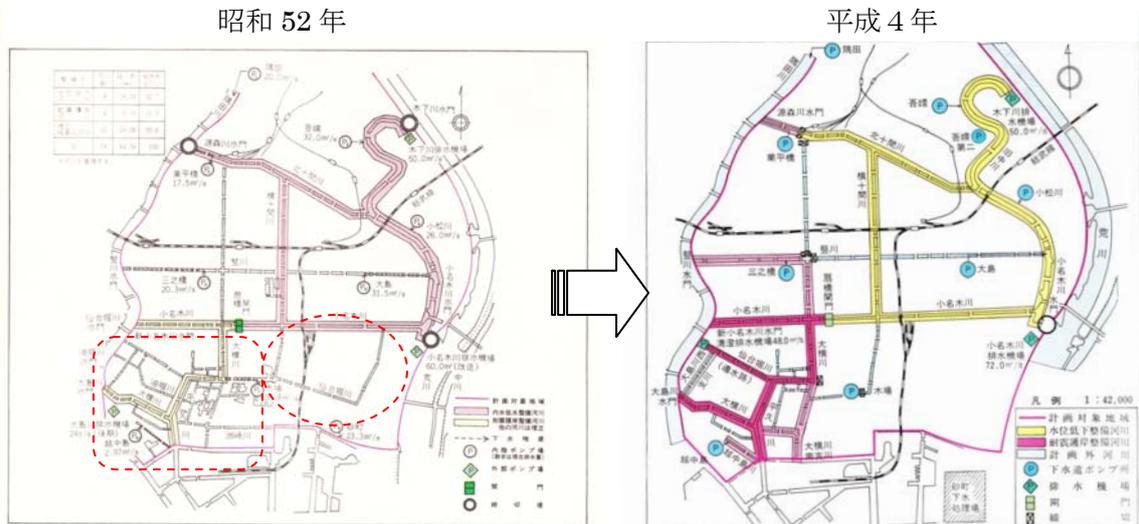


- ①芝川と代用水の水位差は 3 m。代用水から芝川へ落ちる水は閘門で狭められ勢いよく流れるため、20 人が綱で引いて一の閘を通過する。
- ②通過後、一の閘には角落板（幅 18 cm、厚さ 6 cm）を計 10 枚入れて水位を高める。二の閘を通過できる水位に上昇すると綱で引き上げる。
- ③二の閘を追加すると角落板が二の閘に入れられ、代用水と同じ高さまで水位を上げる。船が代用水へ進む。

埋立てられた河川と撤去された橋のモニュメント

●江東内部河川事業の進捗とともに、廃川となった河川があります。

- ・主に赤く囲んだ範囲で廃川となった河川がある。当初は廃川となった河川は埋め立てや暗渠化の計画だったが、廃川とならずに残した河川、水面を残した公園とした例などがある。



●旧川に架かっていた橋梁のモニュメントの例としては次のようなものがあります。

①親柱のみ残る	②説明版や碑がある
③モニュメントが整備されている	④商店街名や通りの名称として残る

河川のボランティア活動

●東京都公園協会では、次のような支援事業にて河川のボランティア活動を支援しています。

①隅田川花守さん支援事業

- ・都民やボランティア等とともに、隅田川のテラスの植栽等の維持管理を行っている。(12団体が活動中)
- ・支援内容としては次の通りである。
 - ◆花壇の管理を行うボランティア団体(=「花守さん」)に花の苗を提供。
 - ◆「花守さん支援講座」を実施し、技術向上を図る。
 - ◆車いす利用の方も花守活動ができる花壇を設置。
 - ◆ボランティア団体間の情報交換、現地視察のために、水上バスを活用した「花守サミット」を開催。



②河川ボランティア助成制度

- ・東京都が管理する河川において、河川環境保全等を目的として、河川の清掃や水質調査等の活動を行うボランティア団体に対して、助成金を交付している。(H20年度は43団体を予定)



●各区における活動事例は次のとおりです。

【墨田区】

①中川桜愛護会

- ・旧中川河川敷を墨田区の桜の名所にしたいとの地元の強い要望があり、平成15年3月に桜の植樹を地元と5町会有志とともに行った。この桜の保護と、旧中川の自然豊かな空間を大切にしていくことを目的としている。
- ・沿川5町会の会員で組織されている。
- ・活動は桜の保護活動(管理、施肥)、花壇への季節の花々の植付け、地元小学校の生徒が描いた環境美化PRポスターの掲示等である。

②トンボサポーター

- ・墨田区内にあるトンボ等が生息できる自然環境を守り、自然環境の保全と回復に向けての活動をし、次世代に継承できる街づくりを目指して設立した。
- ・ボランティア30名程度で組織されている。
- ・平成19年度は大横川親水公園での生物観察、環境の保全活動やあきるの市での自然観察会を行った。平成20年度は大横川親水公園での特定外来種の間引き作業を行った。

【江東区】

①「わがまち江東きれいに活動」

- ・アダプト(里親)制度による「わがまち江東きれいに活動」では、法人や市民団体等66団体が清掃活動等を行っている。
- ・週1回活動する団体は42団体、月1回活動する団体は24団体ある。
- ・区はゴミ袋や腕章を支給、ゴミの回収を支援している。

②荒川クリーンエイド

- ・年1回、荒川河川敷の清掃活動を行っている。

【江戸川区】

- ・江戸川区内では「水辺のボランティア」として、24団体・8個人が活動している。
- ・江戸川区では、次のような支援をしている。
 - ①交流の支援として、「水辺の活動交流会」、「アダプト活動交流会」を実施。
 - ②清掃活動等ボランティアに軍手や火ばさみ等の道具を支給。
 - ③水辺スポーツボランティアには、艇庫の貸与、旧中川ボートフェスタ、新中川ボートフェスティバルへの参加や広報活動の支援。

都民委員からの話題提供

- 「首都高速7号線高架下の有効利用についての要望書」について報告がありました。
 - ・提出先：墨田区教育委員会
 - ・提出者：墨田区立錦糸中学校ボート部保護者一同
 - ・要望趣旨は次のとおりである。

墨田区漕艇庫（1988年創設）に近接する首都高速7号線の高架下、松本橋から横十間川（墨田区江東橋4丁目2番地先～江東区毛利2丁目11番地地先）に囲まれた空き地をより多くの人が、ボート競技に親しみ、より高い目標に向かって技術を向上させていくための拠点として、新艇庫として利用させていただくことを強く希望します。又、子供達の能力を様々な形で伸ばしていく為にも、是非、シングルとダブルスの種目公認とシングル、ダブルス艇の寄付についてもご検討いただきたいと思いますと思っております。

その他、情報提供等

- 「海拔ゼロメートル世界都市サミット」が12月に江戸川区にて開催されます。



流域連絡会の今後の予定

次回の流域連絡会（第5期第8回）は、1月30日に予定しています。次回は、第5期の最終回となりますので、これまでのとりまとめとする予定です。

江東内部河川流域連絡会・委員名簿

		住 所 ・ 団 体 名	氏 名
都 民 委 員	個 人	墨田区	梅原 博明
		墨田区	^{ふたき} 二木 祥一
		墨田区（区内在勤）	正岡 久武
		江東区	菊地 進一
		江東区	黒木 正幸
		江東区	^{ひみ} 氷見 修三
		江東区	吉田 正子
		江戸川区	山内 久二
	団 体	江東区 江東区和船友の会	三好 寿雄
		江戸川区 旧中川灯籠流し実行委員会	江頭 正恭
江戸川区 小松川平井地区連合町会		谷川 貞夫	
		所 属 ・ 職 名	氏 名
行 政 委 員	墨田区都市整備部道路公園課長	斎藤 雄吉	
	江東区土木部水辺と緑の課長	荒木 猛男	
	江戸川区土木部計画課長	立原 直正	
	東京都環境局自然環境部水環境課長	仁科 彰則	
	東京都下水道局建設部土木設計課長	猪八重 勇	
	東京都下水道局東部下水道事務所ポンプ施設課長	菱谷 和信	
	財団法人 東京都公園協会水辺事業課長	東山 正行	
	東京都建設局河川部副参事（河川管理制度担当）	植村 敦子	
	東京都建設局河川部計画課長	長島 修一	
	東京都建設局第五建設事務所管理課長	青木 正	
東京都建設局江東治水事務所内部河川工事課長	西村 行正◎		
東京都建設局江東治水事務所水門管理課長	佐々木 晶		

◎ 座長

連絡先：江東内部河川流域連絡会事務局（東京都江東治水事務所内部河川工事課内）

担当：吉岡、林

TEL：03-3692-4945（直通） FAX 03-3696-6499

Email-address：S0200225@section.metro.tokyo.jp